



	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑩個に応じたコミュニケーション力の向上を目指す取組について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・学習指導係 ・国語主任 ・各学年主任 実習係	・各授業において、あいさつ、返事、連絡、報告の励行を教職員間で共通理解を図る。また、生徒同士の話し合い、質疑応答の場面を設定し、生徒が自分の意見を発表する機会を設ける。 ・国語では、俳句作りを推奨し、生徒が自己表現をしたり、意見を発表したりする機会を多く作る。 ・学年集会や現場実習励励会等、大勢の人の前での発表の機会を設ける。	A	A	A	・校訓に基づきあいさつ、報告等の徹底ができた。また各授業においても“対話的な学び”に関する実践が行えた。 ・国語の俳句作りでは、上毛ジュニア俳壇へ応募したり、かえて祭で掲示したりすることによって生徒の励みになり、より積極的に自己表現しようとする態度がみられた。 ・励励会を実習前に設け、自分の思いを他者へ伝える経験を積み重ねた。	・高等特別支援学校として社会への出口で進路決定が大事であることは大前提だが、高校生らしい趣味や自分の良いところを伸ばす取組にも力を入れてほしい。その意味でも自立活動の充実が重要となる。生徒と一緒に考えていってもらいたい。そのようなことが離職率の低下にもつながるのではないかと考えている。	・あいさつ、返事、報告、連絡、相談に加えて、社会人としてふさわしい言葉遣いについて、職員、生徒問わず日常的に向上できるような環境づくりをする。 ・来年度も引き続き国語の授業で俳句作りを行い、生徒が自己表現しようとする態度を養ってほしい。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑪生徒一人一人の基本的な生活習慣や健康上の配慮について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・養護教諭 保健主事 ・担任	・月に1回保健便りを発行する。 ・定期健康診断の結果を速やかに各家庭に通知する。 ・疾病保有生徒の保護者との情報交換を密に行い、処置方法について共通理解を図る。 ・毎日の連絡ノートで保護者と情報交換し、生徒の健康状態の把握に努める。	A	A	A	・保健便りを発行し健康に関する情報提供を行った。 ・定期健康診断で異常が見つかったが未受診の生徒に対し、再度通知して受診を促した。 ・疾病保有生徒の健康状態について、随時保護者との情報交換を行った。	・授業を見学させてもらい、先生方が非常に熱心に指導に当たっていることが印象に残った。企業では6月から熱中症対策に取り組んでいるが、学校でも安全第一で取り組んでいってもらいたい。	・健康上の配慮が必要な生徒に対し、緊急時の対応や救急処置について職員全体で共通理解を図るよう研修を実施する。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑫緊急時の対応策について保護者の80%以上から満足を得ている。	・防火防災係 ・担任	・地震対応避難訓練、不審者対応避難訓練を年度内に1回ずつ、火災対応避難訓練を年度内に2回実施する。 ・訓練を行う前に対応マニュアルや実施要項を読むことを職員に呼びかけ、生徒が安全に避難できるようにする。 ・避難経路や避難の仕方、避難の際の注意点等について、クイズやアンケートを準備し各クラスで事前・事後指導を行い、日頃から緊急時対応について生徒と確認しておく。 ・学期初めに非常用食料を持ってきてもらい、学期末には家に持ち帰り賞味期限、消費期限を確認してもらう。	A	A	A	・地震対応避難訓練、不審者対応避難訓練を1回ずつ、火災対応避難訓練を2度実施した(1度目は地震避難訓練と抱き合わせ)。 ・訓練後にアンケートを実施、より安全に生徒全員が避難できるよう、マニュアルの見直しを行った。 ・消火器の場所や校庭の避難集場所など、分かりやすい掲示を作成した。 ・非常用食料の消費期限の確認を毎学期末に行い、生徒自身でも確認できるようチェック表を使用した。	・生徒の安全を第一に取り組んでほしい。	・消火栓を用いた消火訓練やさまざまな講習など、職員への研修をより充実させる。 ・放送が使えない状況や日時を知らせない訓練などの検討をしていく。
	8 年間を通じて、計画的な生活・安全指導が行われていますか。	⑬交通安全など身を守る指導について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・交通安全係	・駅指導や通学指導を行い、電車内や駅でのマナーを指導して、公共の交通機関を利用する上での注意喚起をする。 ・学期毎に交通安全教室を行い、自転車の乗り方や歩行場所、道路の横断の仕方について指導する。 ・保護者と協力してマナーアップ運動を実施する。	A	A	A	・交通安全教室や日々の学習の中で、公共交通機関の利用時は安全に留意すること、マナーを守ることについての指導を行った。特に駅の利用の仕方については、継続的に指導を行い、身についてきている。 ・マナーアップ運動については今年度も多数の保護者に参加していただけたので、継続して連携を図ってほしい。	・正門の横断歩道が消えかけているので、白線を濃くした方がよいのではないかと。	・校外で実施する交通安全教室を1学期と2学期に行っているが、毎年炎天下での実施となっているため、生徒の体調には十分に留意して実施していきたい。
	9 年間を通じて、計画的な生活・安全指導が行われていますか。	⑭いじめの未然防止の取組について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・特別活動係 ・生徒指導主事	・生徒会とHR委員を中心に、4月・10月・2月の年3回あいさつ運動を実施する。 ・いじめに関するアンケート調査を実施し、調査結果を教職員間で共有し全員で対応する。 ・いじめ対策委員会を頻りに開き、生徒情報の共有を行い、いじめの未然防止及び早期対応に取り組む。 ・いじめ防止に関わる活動について、学校HPや通信等で保護者に情報発信を行う。	A	A	A	・生徒会役員に、自分で考えたり選んだいじめ防止標語を、毎月昼の放送で紹介した。 ・人間関係アンケートの結果をいじめ対策委員会にて報告し、対応策等話し合った。 ・毎月いじめ対策委員会を開き、生徒情報の共有を行った。 ・保護者に対し、学校HPをはじめ、具体的な情報発信があまりできなかった。	・子どもの教育活動は、スライドや資料でよく分かった。スマホトラブルも大変だが、保護者と協力しながら、外部講師等の情報モラル教育も徹底し、子ども同士のトラブルから人間関係がこじれて不登校にならないよう、子どもに寄り添って丁寧に指導してもらいたい。	・方策としては今年度と同様の活動を行ってほしい。そして新たに、いじめ防止に関する指導例やポイントなど、具体的な情報発信を検討したい。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑮社会生活に必要な力が段階的に身に付いていると感じている保護者が80%以上いる。	・学習指導係 ・普通科主任 ・総合主任 ・担任	・キャリア教育全体計画、キャリアパスポートにより、一人一人のキャリア発達に基づいて授業実践をする。 ・普通科では遠足を企画し、クラスでは学校周辺の公共施設や商店の利用を通じて校外活動の充実を図る。 ・総合的な探究の学習テーマ「地域を知る」「職業を知る」「自分を知る」について、自分との関わりの中で学習を進められるようにする。 ・卒業後の生活を想定し、生徒自身が主体的に活動できるような校外活動等を企画していく。	A	A	A	・各クラスにおいてキャリアパスポートづくりを通して、キャリア教育が行われていた。 ・普通科では、学年やクラスごとに、電車やバス等の公共交通機関や図書館等の公共施設・学校周辺の商店の利用する校外活動を複数回実施した。 ・「地域を知る」をテーマに、3学年は伊勢崎銘仙の学習に取り組み、伊勢崎銘仙の魅力を知ることができた。	・地域の福祉関係者として、販売活動やイベント、実習の受け入れ等、地域社会資源として選んでもらえれば協力していきたい。また、生徒の参加に大変感謝している。イベントや地域活動に協力してもらいたい、地域の学校としての存在感が素晴らしい。境地区に高等特別支援学校があることを地域として宣伝していきたい。製品製作や銘仙のコラボも素晴らしい。	・現行のキャリアパスポートを継続的に使用することにより、生徒のキャリア発達を促していく。 ・3ヶ年に渡る学習計画を立てることはなかなか難しいが、生徒にとっても良い学習であるので、できれば来年度入学生から学習計画を立てたいと考えている。
	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑯進路情報の提供や関係機関との連携について、保護者の80%以上から満足を得ている	・進路指導主事	・学年保護者会では、就労や福祉施設利用に向けた手続きや過程を図示化して、プロジェクターを用いて提示したり、資料をカラーにしたりするなどしてわかりやすく進路情報を伝える工夫をする。 ・群馬県心身障害者福祉センターが年に2回発表している「群馬県障害福祉サービス事業所利用状況」を保護者に配付し、進路選択の参考にしていただく。 ・卒業後の生活に関する保護者向け講演会(保険・年金・福祉)等を実施する。 ・移行支援連絡会議を実施し、卒業後の生活や就労がスムーズに行くよう関係機関と情報交換を行う。	A	A	A	・各学年の保護者会や10月の進路ガイダンス①等で、就労や福祉施設利用に向けた手続きや過程を図示化してプロジェクターを用いて提示したり、資料をカラーにしたりするなどしてわかりやすく進路情報を伝える工夫をして、進路情報を発信した。 ・群馬県心身障害者福祉センターが年に2回発表している「群馬県障害福祉サービス事業所利用状況」を全保護者に配付し、1年保護者会では資料を基に説明を行い、進路選択の参考にしていただいた。 ・卒業後の生活に関する保護者向け講演会(保険・年金・福祉)を実施した。 ・11月20日(伊勢崎市メルシー)、12月2日(太田市わーくさぼーと)に移行支援連絡会議を実施し、卒業後の生活や就労がスムーズに行くよう関係機関と情報交換を行うことができた。	・伊勢崎地区の特徴として、就労継続支援B型事業所が増えていて、一般就労が狭まってきているのではないかと。B型事業所から一般就労を考へる保護者も増えてきている。令和9年度に伊勢崎特別支援学校に高等部ができることだが、伊勢崎高等特別支援学校は就労に特化しているのが望ましいのではないかと。作業や交流等、教育活動の力の入れどころを今後も継続してしてほしい。 ・選択支援に変わり、伊勢崎地区は3か所も事業所があることで、対応が大変なのではないかと思う。 ・3年生の進路に関しては、一般就労、福祉就労が決定し、素晴らしい成果なのではないかと思う。 ・2年生の実習状況は一般就労が少なめであると感じた。今後、成長度合いで一般就労も検討してほしい。	・各学年の保護者会で、その時期に必要な内容を話していき、数回の進路ガイダンス等を実施したい。進路関係の行事が円滑に進められるよう、外部機関や関係機関、校内において関係する部や係、学年、管理職や学科主任などと連携を密にし、状況を把握しながら調整し、実践していきたい。
	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑰進路指導に対して保護者の80%以上から満足を得ている。	・進路指導主事 ・作業統括主任 ・1学年主任	・生徒や保護者の希望と実状に合わせた職業教育、就業体験等を実施する。 ・生徒の実態やニーズを把握し、現場実習先とのマッチングを図る。 ・生徒の実態に応じて、作業種や作業工程を再検討し、作業学習や校内実習の充実を図る。 ・1学年で事業所見学を実施し、就労に向けての職業観を育成する。	A	A	A	・進路先が未定の3学年の生徒は、生徒の実態やニーズに応じて、臨時の現場実習や事業所の見学等、調整して実施していく。 ・1学年の事業所見学では、先輩が実際に働いているところを見ることが、将来働くということのイメージが具体的に感じられた。 ・生徒や保護者の希望と実状に合わせた職業教育、校内実習、現場実習を行い、3年生は希望する進路を実現することができた。	・学校に登校できない生徒が、2・3年生に在籍しているようだが、卒業後の進路決定に向けてフォローアップを定期的にしてほしい。	・その子にあった進路が実現できるよう、本人・保護者、外部機関や関係機関、校内において関係する部や係、学年、管理職や学科主任などと連携を密にし、状況を把握しながら調整し、実践していきたい。